

2015 年度秋学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	キリスト教・同志社科目
-----------	-------------

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

キリスト教・同志社科目の実施率は 100%であり、回答率は一昨年度及び昨年度秋学期よりやや上昇し、85.7%（2013 年度 77.6%、2014 年度 78.1%）であり、新しい授業評価になって、最も高い数値を示している。

2013 及び 2014 年度のアンケートと比較し、以下 4 点の特徴が明らかになった。

- (1) 教員の話し方、授業内容とシラバスの一致、クラス全体が集中して取り組めるようにする教員の配慮、教員の授業方法の項目は、平均値 4.0 を超え、全体的に高い。これは 2013 及び 2014 年度秋学期とほぼ同じ傾向を示している。
- (2) 授業に対する意欲的な取組、授業による知的好奇心の高まり、授業内容の理解、も平均値 3.6 以上であり、全体的にやや高い傾向にある。このことも秋学期とほぼ同じである。ただ、全学のそれぞれの項目の平均値がほぼ 4.0 を超えていることから、全体的には低いことが分かる。これも一昨年度及び昨年度とほぼ同じ傾向である。
- (3) 授業時間以外の学習時間については、キリスト教・同志社科目の学習時間が 0.32 時間（2013 年度秋学期 0.27 時間、2014 年度 0.20）であり、全学平均よりも低い。内訳として、0 時間が 62.1%（2013 年度秋学期 65.1%、2014 年度 75.6%）という結果であった。これは昨年度とほぼ同じである。授業外学習時間がわずかではあるが、上昇している点は、良い傾向であると思える。今後とも、学生に課題等を与え、学生が目的をもって、授業に臨むようにさせたい。
- (4) DWCLA10 の選択率に関しても、思考力が全体の 54.6%であり（2013 年度 50.7%、2014 年度 51.1%）、最も高い比率であり、次に創造力 28.8%（2013 年度 30.8%、2014 年度 27.7%）が続き、思いやる力が全体の 22.4%（2013 年度 16.1%、2014 年度 16.6%）を占めている。

全学の科目の平均値と比べると本科目が全体としては、やや低い傾向が見られる。しかし、教員の話し方や授業方法の工夫は全学と同じ点であることから、教員の努力は評価できる。キリスト教・同志社科目は、他の科目と性格を異にしているため、必ずしも同じ観点では評価できない。本科目は、本学の教育理念の一つである「キリスト教主義」を担っている。今後、更にこの科目が充実するように期待したい。また、数字で測定できないものをどのように評価したらよいかについても考える必要がある。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。